

## なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

### 平成22年9月調査結果

現在の景気の現状判断は、7月より3.1%ポイント悪化の32.7%ポイントと、厳しさが少し強まる判断となっています。

次に1年前と比べた場合は、7月と比べ大きく8.2%ポイント悪化し41.1%ポイントとやや厳しい状況に戻る判断となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合も、7月に比べ6.4%ポイント悪化の42.9%ポイントと、やや厳しい状況に戻る判断となっています。

3～6ヶ月先の景気の先行き判断は、7月と比べ9.2%ポイントと大幅に下げて、34.7%ポイントと厳しい状況に戻る予想となっています。

◎全体的には、エコカー補助の終了に加え、急激な円高、中国との問題等の懸念材料から不安が広がり、消費の低迷や低価格志向に拍車がかかる状況となっているものと思われま  
す。また、雇用についても不透明感から影響が出るものと考えられます。

なお、景気は、踊り場入りの状況にあるものと思われます。

平成22年10月7日

なかつがわ全市緊急経済対策本部

## 調査の概要

### ○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

### ○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体  
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

### ○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

### ○調査の時期

調査は毎月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は10月6日まで)

### ○有効回答率

86.7% 有効回答客体 39名

### ○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「D I」といいます。

「D I」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

#### 1 D I 値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、D I 値を算出する。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

## 2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ←                      50                      →                      0  
 良くなっている                      変わらない                      悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4			⇒ ほんの少し景気が後退している	

となります。

## 調査の結果

### 1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、7月より3.1%ポイント悪化の32.7%ポイントと、厳しさが少し強まる判断となっています。

内訳では、家計動向関連で飲食観光関連は11.6%ポイント改善し48.0%ポイントと回復に近づいたものの、小売関連は16.9%ポイントと大幅に悪化し19.7%ポイント、サービス関連も4.2%ポイント悪化し25.0%ポイントと非常に厳しい状況の判断となっています。

また、雇用関連でも、7月と同じ39.3%ポイントと、厳しい状況が続く判断となっています。

表1 9月構成比

	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	5.1	5.1	18.0	59.0	12.8	0.0	32.7
家計動向関連	6.3	6.3	9.3	62.5	15.6	0.0	31.3
小売関連	0.0	0.0	0.0	78.6	21.4	0.0	19.7
飲食観光関連	16.7	16.7	16.7	41.6	8.3	0.0	48.0
サービス関連	0.0	0.0	16.7	66.6	16.7	0.0	25.0
雇用関連	0.0	0.0	57.1	42.9	0.0	0.0	39.3

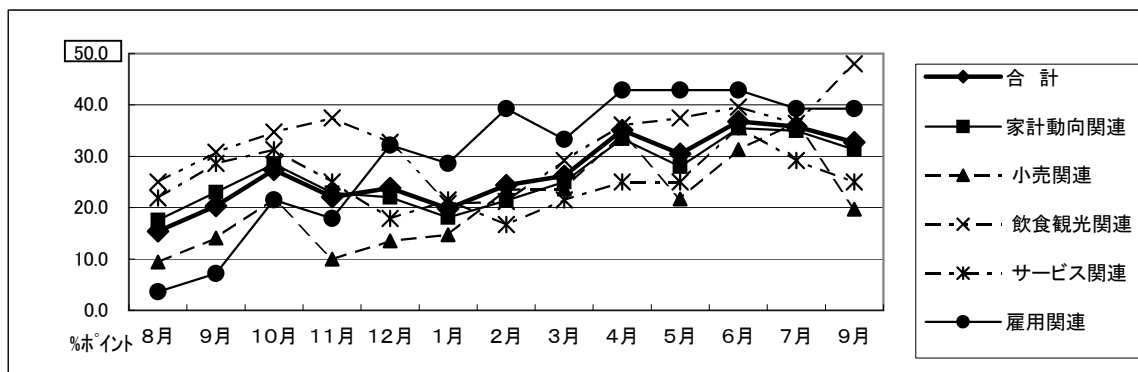
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2010	3	0.0	7.1	19.1	45.2	28.6	0.0	26.2
	4	0.0	16.2	24.3	37.9	18.9	2.7	35.1
	5	0.0	7.3	29.3	41.5	21.9	0.0	30.5
	6	0.0	15.8	36.8	26.3	21.1	0.0	36.8
	7	0.0	10.8	37.9	35.1	16.2	0.0	35.8
	9	5.1	5.1	18.0	59.0	12.8	0.0	32.7
	(前月差)	( 5.1)	(-5.7)	(-19.9)	( 23.9)	(-3.4)	( 0.0)	(-3.1)

表3 D I 値の推移

	2010年						
	3月	4月	5月	6月	7月	9月	(前月差)
合計	26.2	35.1	30.5	36.8	35.8	32.7	(-3.1)
家計動向関連	25.0	33.4	28.0	35.5	35.0	31.3	(-3.7)
小売関連	23.6	34.4	21.7	31.3	36.6	19.7	(-16.9)
飲食観光関連	29.2	36.1	37.5	39.6	36.4	48.0	( 11.6)
サービス関連	21.5	25.0	25.0	35.7	29.2	25.0	(-4.2)
雇用関連	33.3	42.9	42.9	42.9	39.3	39.3	( 0.0)



## 2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、7月と比べ大きく8.2%が悪化し41.1%とやや厳しい状況に戻る判断となっています。

内訳は、家計動向関連の飲食観光関連で6.5%が改善し54.2%とほぼ回復となりましたが、小売関連で26.9%と急激に悪化し25.0%、サービス関連は7月と同じ29.2%と厳しい状況の判断となっています。

また、雇用関連は、7月より少し下げて60.7%と引続き回復を示す判断となっています。

表1 9月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	DI値
合計	7.7	10.3	38.5	25.6	17.9	0.0	41.1
家計動向関連	9.4	3.1	34.4	31.2	21.9	0.0	36.7
小売関連	0.0	0.0	21.4	57.2	21.4	0.0	25.0
飲食観光関連	25.0	8.3	41.7	8.3	16.7	0.0	54.2
サービス関連	0.0	0.0	50.0	16.7	33.3	0.0	29.2
雇用関連	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0	0.0	60.7

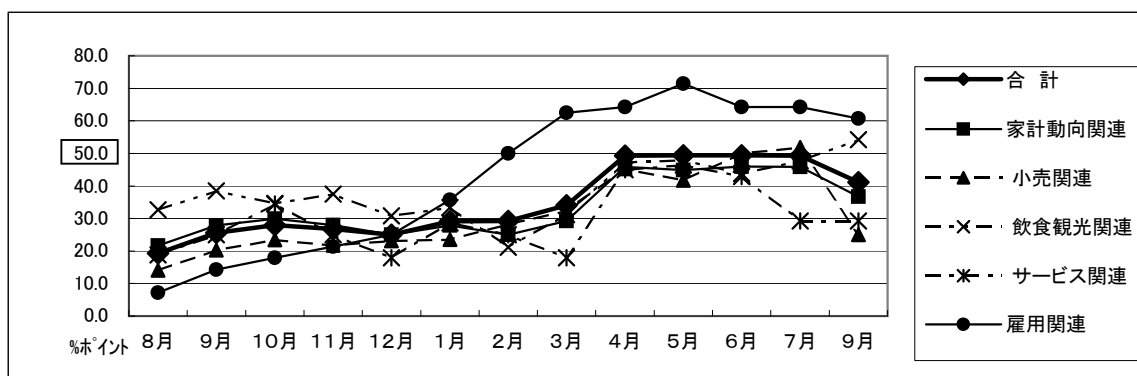
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてDI値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	DI値
2010	3	0.0	16.7	23.8	38.1	21.4	0.0	34.0
	4	5.4	27.0	37.9	18.9	10.8	0.0	49.3
	5	2.4	26.8	46.4	14.6	9.8	0.0	49.4
	6	2.6	36.9	26.3	23.7	10.5	0.0	49.4
	7	0.0	35.1	37.9	16.2	10.8	0.0	49.3
	9	7.7	10.3	38.5	25.6	17.9	0.0	41.1
	(前月差)	(7.7)	(-24.8)	(0.6)	(9.4)	(7.1)	(0.0)	(-8.2)

表3 DI値の推移

	2010年							(前月差)
	3月	4月	5月	6月	7月	9月		
合計	34.0	49.3	49.4	49.4	49.3	41.1		(-8.2)
家計動向関連	29.2	45.9	44.9	46.0	45.9	36.7		(-9.2)
小売関連	32.4	45.3	41.7	50.0	51.9	25.0		(-26.9)
飲食観光関連	31.2	47.2	47.9	43.8	47.7	54.2		(6.5)
サービス関連	17.9	45.0	46.4	42.9	29.2	29.2		(0.0)
雇用関連	62.5	64.3	71.4	64.3	64.3	60.7		(-3.6)



## 2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、7月に比べ6.4%が悪化の42.9%と、やや厳しい状況に戻る判断となっています。

内訳は、飲食観光関連で8.7%を上げて54.2%と回復傾向にあるものの、小売関連では16.2%を下げた35.7%、サービス関連も16.7%を下げた33.3%と急激に悪化し、厳しい状況に戻る判断となっています。

また、雇用関連は、7月より3.6%が悪化し46.4%とやや厳しい状況の判断となっています。

表1 9月構成比

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	DI値
合計	5.1	5.1	53.8	28.2	7.7	0.0	42.9
家計動向関連	6.3	6.3	46.9	31.3	9.4	0.0	42.3
小売関連	0.0	7.1	35.7	50.0	7.1	0.0	35.7
飲食観光関連	16.7	8.3	58.3	8.3	8.3	0.0	54.2
サービス関連	0.0	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0	33.3
雇用関連	0.0	0.0	85.7	14.3	0.0	0.0	46.4

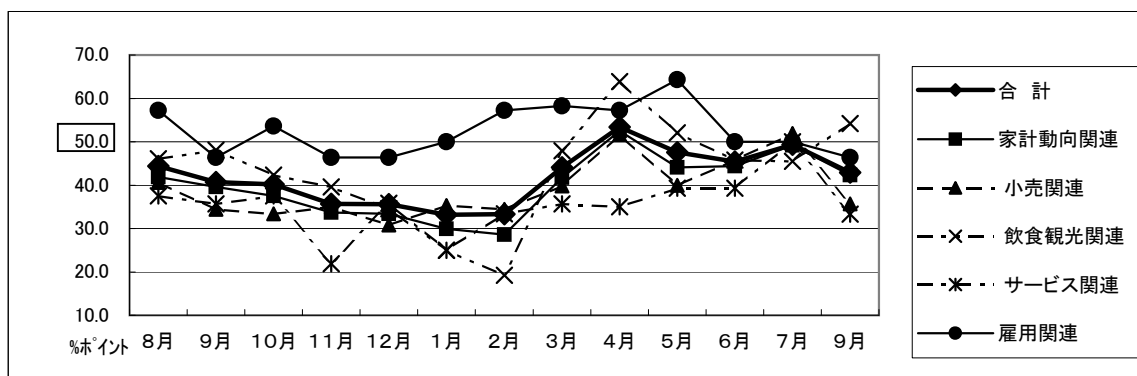
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてDI値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている	未回答	DI値
2010	3	2.4	21.4	40.5	21.4	14.3	0.0	44.1
	4	2.7	27.0	54.1	13.5	2.7	0.0	53.4
	5	0.0	24.4	48.8	14.6	9.8	2.4	47.6
	6	2.6	21.1	44.7	18.4	13.2	0.0	45.4
	7	2.7	13.5	67.6	10.8	5.4	0.0	49.3
	9	5.4	5.4	51.4	29.7	8.1	0.0	42.6
	(前月差)	(2.7)	(-8.1)	(-16.2)	(18.9)	(2.7)	(0.0)	(-6.7)

表3 DI値の推移

	2010年							(前月差)
	3月	4月	5月	6月	7月	9月		
合計	44.1	53.4	47.6	45.4	49.3	42.9	(-6.4)	
家計動向関連	41.7	52.5	44.1	44.4	49.2	42.3	(-6.9)	
小売関連	39.8	51.6	40.0	45.8	51.9	35.7	(-16.2)	
飲食観光関連	47.9	63.9	52.1	45.8	45.5	54.2	(8.7)	
サービス関連	35.7	35.0	39.3	39.3	50.0	33.3	(-16.7)	
雇用関連	58.3	57.2	64.3	50.0	50.0	46.4	(-3.6)	



## 2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、高額品が売れないや買上げ金額が少ないなどから「単価の動き」が57.1%と高くなっています。

飲食観光関連でも、観光客などの増減から「来客数の動き」が58.3%と高く、ついで単価の低下から「単価の動き」が50.0%と高くなっています。

サービス業関連でも、お客様の減少などから「来客数の動き」が66.7%と大きくなっています。次に、雇用関連では、新規求人数の状況から「求人数の動き」が57.1%と高くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	50.0	25.0	46.9	31.3	3.1	3.1
小売関連	35.7	35.7	57.1	35.7	0.0	7.1
飲食観光関連	58.3	16.7	50.0	16.7	0.0	0.0
サービス関連	66.7	16.7	16.7	50.0	16.7	0.0

	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	57.1	14.3	0.0	14.3	28.6	0.0

※複数回答による割合

### 3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、エコカー補助の終了に加え、円高、中国との問題等の懸念材料から7月と比べ9.2%ポイントと大幅に下げて、34.7%ポイントと厳しい状況に戻る予想となっています。

内訳は、小売関連で15.5%ポイント、飲食観光関連で3.8%ポイント、サービス関連で12.5%ポイントそれぞれ下げて厳しい予想となっています。

また、雇用関連でも、エコカー補助の終了による自動車関連の雇用不安から、3.6%ポイント下げて、35.7%ポイントと厳しい予想となっています。

表1 9月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	0.0	7.7	38.5	38.5	15.3	0.0	34.7
家計動向関連	0.0	9.4	37.5	34.4	18.7	0.0	34.4
小売関連	0.0	7.1	21.4	42.9	28.6	0.0	26.8
飲食観光関連	0.0	16.7	41.7	33.3	8.3	0.0	41.7
サービス関連	0.0	0.0	66.6	16.7	16.7	0.0	37.5
雇用関連	0.0	0.0	42.9	57.1	0.0	0.0	35.7

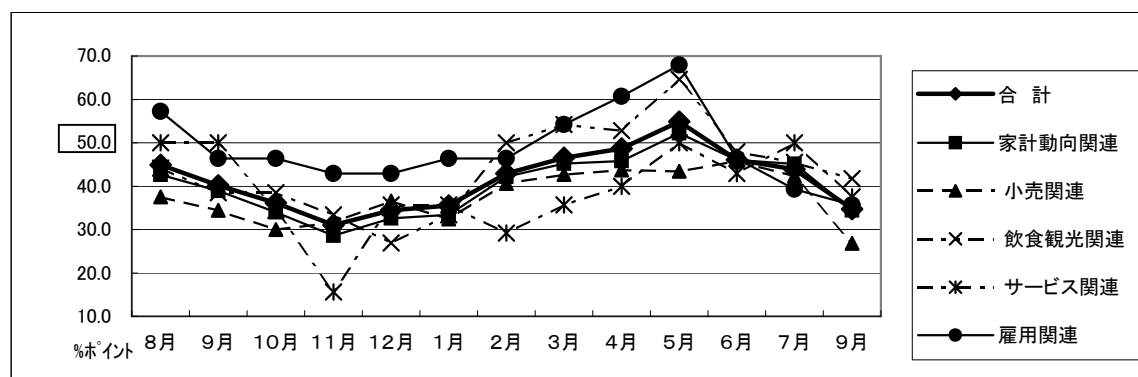
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2010	3	2.4	19.1	50.0	19.0	9.5	0.0	46.5
	4	0.0	27.0	48.7	16.2	8.1	0.0	48.7
	5	2.4	36.6	41.5	12.2	4.9	2.4	54.9
	6	2.6	21.1	44.7	21.1	10.5	0.0	46.1
	7	2.7	13.5	51.4	21.6	10.8	0.0	43.9
	9	0.0	7.7	38.5	38.5	15.3	0.0	34.7
	(前月差)	(-2.7)	(-5.8)	(-12.9)	( 16.9)	( 4.5)	( 0.0)	(-9.2)

表3 D I 値の推移

	2010年							(前月差)
	3月	4月	5月	6月	7月	9月		
合計	46.5	48.7	54.9	46.1	43.9	34.7	(-9.2)	
家計動向関連	45.2	45.8	52.2	46.0	45.1	34.4	(-10.7)	
小売関連	42.7	43.7	43.4	45.8	42.3	26.8	(-15.5)	
飲食観光関連	54.2	52.8	64.6	47.9	45.5	41.7	(-3.8)	
サービス関連	35.7	40.0	50.0	42.9	50.0	37.5	(-12.5)	
雇用関連	54.2	60.7	67.9	46.4	39.3	35.7	(-3.6)	



景気の現状判断の理由

分野	景気の判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	3ヶ月前	1年前			
家 計 動 向 関 連	良くなっている	良くなっている	道の駅	来客数の動きとお客様の様子	・特にリピーターのお客が増えています。
			観光案内所	来客数と販売量の動き	・9月に入って一斉に栗きんとんが販売され、当館人気商品の「プチ栗きんとんめぐり」が良く売れた。
	やや良くなっている	やや良くなっている	飲食店	来客数と単価の動き	・単価は若干下がった様子だが、来客数の増加。(地元以外(特に若者)のお客の増加。)
		やや悪くなっている	小売店	単価の動き	—
	変わらない	良くなっている	スナック	来客数の動き	・今まで若い人が減少していたのが、少しずつ、増加していると思います。前よりは安定したのと、皆が今の生活に慣れてきた事。
			小売店	販売量と単価の動き	—
			小売店	販売量の動き	・買上げ金額が少ない。
			スーパー	単価の動き	・高額商品の動きが悪い様です。
			レストラン	来客数の動き	・昨年のような大型連休ではなく、入込客は多少減少しましたが、その特需を除けば例年通りだと思います。7月、8月は客単価の低下が見られましたが、当月は例年通りでした。メディア露出のおかげで手作り体験施設の売上が好調でした。
			レストラン	単価の動き	・客数は微増しているが、売上は減少している。
			ホテル	来客数と販売量の動き	—
			旅館	販売量と単価の動き	—
			旅行代理店	単価の動き	・売れるツアーと売れないツアーの価格のさかいは1万円か。1万円を越えるツアーは申込みが少ない。
			金融機関	お客様の様子	・受注や出荷量などに変化はなく、落ち込んだままとなっている。
			金融機関	お客様の様子	・小口の生活資金貸付の増加傾向。 ・子供手当支給後にも、塾費等削る傾向にある様子。
			タクシー運転手	来客数の動き	・お客様の多くは主に、年金受給者の方ばかりで、年金受給月は、お客様の利用が多いが、それ以外はありません。
			やや悪くなっている	やや悪くなっている	商店街関係者
	小売店	単価の動き			・進物用品等、昨年は3,000円クラスが売れたのに今年は2,000円クラスが主流。
	悪くなっている	道の駅		単価の動き	—
	やや悪くなっている	やや悪くなっている	小売店	来客数、単価の動きとお客様の様子	・今後に対する不安心理で、少し買い控え。
小売店			来客数と販売量の動き	・来客数、販売量、単価すべて減。	

		小売店	販売量、単価の動きとお客様の	—	
		スーパー	来客数、単価の動きとお客様の	・高額品の売行きが鈍って来た。	
		スーパー	来客数と単価の動き	—	
		レストラン	単価の動きとお客様の様子	・来客の単価が少しずつ下がり続けている。	
		美容室	来客数の動き	・来客数が少ない。	
	悪くなっている	商店街関係者	来客数の動き	・客数の減少と慎重な買い物をされています。	
		自動車販売	販売量の動きとお客様の様子	・前年対比2割程マイナス。 ・お客様の購入意欲が低い。⇒なかなか代替えにつながらない。	
		タクシー運転手	来客数、販売量、単価の動きとお客様、競争相手の様子	—	
	悪くなっている	悪くなっている	商店街関係者	加盟店の聞き取り調査	・来客数、売上金額の減少。
			居酒屋	来客数の動き	—
			理容室	来客数の動き	・良くなる要因がない。
雇用関連	変わらない	やや良くなっている	労働金庫	求人数の動き	—
			労働相談所	周辺企業の様子	・14社の訪問調査結果にもとづく判断です。
			自治体労働政策担当	周辺企業の様子	・10月からの中小企業における受注量が減少してくることで、9月までの企業の様子はあまり変化が出ていない。
		変わらない	学校就職担当	求人数の動き	・求人数は12%減。内訳 中津川市21%増、恵那市19%減、その他県内12%減、愛知19%減、その他15%減。全体数は減少しているが、中津川市の求人数は増加。複数求人の企業も増えている。
	学校就職担当		求人数の動き	・昨年に比べて、高卒求人数が一割弱減少している。本校への求人も減っている。	
	人材派遣会社		求職者数の動きと雇用形態の様子	・パート、アルバイトに代表される様に正規職員の求人は皆無。 ・求職者は減少の一途、短期(2~3ヶ月)の求人がほとんどである。	
やや悪くなっている	変わらない	職業安定所	求人数の動き	・新規求人数が前月比27.6%減少した。	

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動	やや良くなる	商店街関係者	・期待をこめて！
		道の駅	・イベント等の企画サービスで、リピーターづくりを続けるので。
		スナック	・皆さんどの分野も、努力しているように思います。商店街にしろ、 外食産業にしろ、メディアもいい街を紹介してヒントを得ていると思 います。秋は栗きんとんやらの菓子祭りもあり、活性化されると思 います。この時にチャンスがあるので、各店アイディアを出して、ま た、中津へ来てもらうようにしなくてはと思う。観光客をどんどん入 れ込む事を考えた方が良い。
向 関 連	変わらない	商店街関係者	・未だムードも良くないので、しばらくは我慢が必要ではないと思 う。
		小売店	—
		スーパー	—
		道の駅	—
		レストラン	・依然と厳しい状況が続くと思いますが、新商品（きりら巻き寿司 等）の販売、メディア露出による手作り体験の好調さを維持し、最低 でも昨年と変わらない状況にしたいと思っております。
		レストラン	—
		ホテル	・円高等の影響もあり、現在より良くなるとは思わない。
		旅館	—
		金融機関	・急激な円高の進行により、単価の引き下げ圧力が強まっており、企 業のマインドは低下している。
		金融機関	・好転する要因が見当たらない、金利の低下、物価の上昇等により、 現状より悪化する懸念はある。
		美容室	・景気の良くなる要素が見あたらない。
		タクシー運 転手	・このままの状況では、変わりません。自社でも考えているが、どう したらよいかわからないこともあります。
や や 悪 く な る		商店街関係者	・補助金申請が終了のため。
		小売店	・我々趣向品は厳しいですね。飲食店さんが下降ぎみだと思います。 アルコール離れ（若い世代）。
		小売店	・円高、中国との問題の報道がすべて日本が悪い方向へ向っているか の論調になっているので、消費マインドに著しく悪い影響を及ぼして いる。
		小売店	—
		小売店	—
		スーパー	—
		レストラン	・エコ対策が終了して、息切れが出て来ると思います。
		飲食店	・何事もマスメディアの発信しだい。

		旅行代理店	・TVでそう言っていました。そう聞くと、少し将来のためにムダ使いをしないようにしようと思う人が増える。⇒お金があまり動かなくなる。
		観光案内所	・「プチ栗きんとんめぐり」の販売終了。
		理容室	・良くなる要因がない。
	悪くなる	商店街関係者	・日本経済の先行きが不安、円高、残業の減少等々。
		小売店	－
		スーパー	－
		自動車販売	・年収の伸びが過去最低などと、トヨタ系も減産をすると（円高の影響がある。）報道があり、又、エコカー補助の打切り等、マイナス要素があつてなかなかきびしい状況になりつつあると思います。
		居酒屋	－
		タクシー運転手	・景気の低迷。
雇用 関 連	変わらない	学校就職担当	－
		人材派遣会社	・景気回復の兆しから、採用を増やす動きもみられるが、短期間就労、パート等の従業員がほとんどである。
		労働相談所	・自動車関連は予想通り推移、電気機械器具関連で若干明るさが出てきた。円高が続くと国内空洞化に拍車がかかる。
	やや悪くなる	職業安定所	・エコカー補助金の終了、円高の影響で、企業の生産調整が増加する懸念がある。
		労働金庫	・エコカー補助金終了に伴い車関係の企業では10月以降の受注が不透明とのこと。
		学校就職担当	・エコカー減税等なくなり、自動車業界を中心に仕事が減るだろう。円高の問題もあり景気は回復しづらい状況にある。
		自治体労働政策担当	・先の見通しが立たない等の理由により、製造業を中心に生産量を一度おとしてくると思われる。